

二〇一九年四月二六日

朱の欄に藤屑こぼす浮舞台
両袖にさつきの燃ゆる浮舞台

明日香
ぼんこ

二〇一九年四月二五日

春眠し昼餉の箸の転げ落つ
菜の花にしぼし遊びて蝶去りぬ
風折れの枝を杖とす芽吹山
雨晴れたよと騒がしき藤の虻
傾ぎたる塔婆に触るる糸桜
土付きの筍の皮瑞々し

智恵子
たかを
たか子
三刀
愛正
やよい

二〇一九年四月二四日

高舞ふは落花にあらずしじみ蝶
隠沼を真つ黒にして蝌蚪の国
口笛に和す鶯や尾根愉し
春愁や降らずみの空見上げては
浅緑はた萌黄にと山笑ふ
手水舎の天蓋なして藤盛る
雨止めばすぐに来てゐる藤の虻

明日香
せいじ
せいじ
菜々
たか子
さつき
よし女

二〇一九年四月二三日

立枯の大樹と見たり懸り藤
広々と平常宮跡雲雀鳴く
な滑りそここだ嵩なす花の屑

ぼんこ
せいじ
こすもす

二〇一九年四月二二日

出漁の舳先に小さき鯉幟

さつき

二〇一九年四月二一日

鯉のぼり天守の風を孕みけり
干し物をたたためばほろと花の屑
暗幕を開ければ眩し新樹光
先生の膝を枕に入園児
白蓮の歌碑に歩を止め春惜しむ

やよい
たか子
よう子
なつき
さつき

二〇一九年四月二〇日

百千鳥片耳欠けし道祖神
水芭蕉苞は赤子を抱くよに
川幅を狭しと闊ぐ鯉のぼり
残り潮墨汁模様なす干潟

うつぎ
そうけい
たか子
三刀

毎日句会みのる選・二〇一九年四月二八日